



新しい時代の流れを「特許」で促進

ボーダレスな時代に問われる特許事務所の役割

「ビジネス・メソッド・パテント」が話題になるなど、特許の在り方が注目され始めている。特許が持つ産業発展の可能性が、広く認知されるようになったからかも知れない。その辺りの背景を、成長著しい龍華国際特許事務所の龍華氏に、俳優の大石吾郎さんがお話を伺った。

龍華国際特許事務所 ホームページアドレス <http://www.ryuka.com>

弁理士

龍華 明裕

ゲスト・インタビュー
大石 吾郎
(俳優)

大石 少し前に話題になった「ビジネス・メソッド・パテント」。素人考えですが、あいだの特許が認められると、ビジネスをやりにくくなるのではないか。

龍華 他人に権利を取られた場面では、確かにビジネスはしにくくなりますね。しかし、特許には少し違う面もあります。ご存知のように情報化が進み、個人でも世界を舞台にビジネスを展開できる時代になりました。このような背景にあっては、新たなビジネスを創る人に、より多くのチャンスが与えられることが大切です。ビジネス・モデルの保護は、このような背景の中で生まれてきました。

特許というと、独占されるというイメージが強いですね。しかし現実にはそうでもないんです。例えば、特許により儲けようと考えたら、何らかの方法で、その特許により世の中に提供される利益の総額を大きくする必要があります。そ

して、特許により世の中に提供される利益の総額を大きくするためには、できるだけ多くの人に特許を使ってもらう必要があります。起業や事業の拡大の他にも、ライセンスや事業提携という形で特許が利用されることになります。

だから現実には、大切な特許が少数の人に独占されることはあるし希なんですね。例えば少し前に有名になったビジネス・メソッド・パテントに、三井住友銀行のパーカーク特許があります。この発明は、今月から静岡銀行により実施されることになりました。

今日では世界規模で情報化が進んでいますので、個人の発明が世界で利用される機会も増えています。例えば、弊所で出願をした元ハイバーネット社のビジネス・メソッド特許、これはインターネットプラットフォーム中に広告を表示し続けるシステムに関する特許なんですが、米国に於いてもライセンスされ、事業に生かされています。企業自体が米国に進出をしなくとも、米国の企業に特許をライセンスし、発明を実施してもらうことにより、海外の事業による収益を上げることができます。

大石 なるほど。権利がきちんと守られることで、新たな発想や発明が生かされ、それが社会全体のプラスになる、と。龍華 ええ。技術や能力が特許によって正当に評価されるようになれば、個人や組織がその能力を生



龍華 明裕 (りゅうか あきひろ)

東京都出身。学生時代に学習塾を経営。眞に人を育てるということを考え続けた。キヤノン㈱で開発経験を積み、93年に日本弁理士試験に、96年に米国弁理士試験 (Agent) に合格。98年に独立。

かせる環境が整い、例えばベンチャー・ビジネスを興したり、企業内にあっても、発明をすることのできる個人や組織が活躍することができる場が広がります。私たちの仕事は、そうした新しい時代の流れを促進することです。

しかし、大きな課題もあります。まず、権利の価値を客観的に評価し、認知させる方法を創ること。そして権利の価値を最大化するライセンスあるいは技術提携ができるように、企業を支援することのできる組織が必要です。また権利が無視された場合に、権利を正当に保護する支援が必要です。ここでは法的な解釈や支援のみでなく、むしろ企業のビジネスを深く理解し、そのビジネスにとって好ましいソリューションを考え提案する力が大切になります。

これらの課題に対して積極的に責任を取りに行くことが、特許事務所としての役割だと考えています。

大石 これからの時代、益々「特許」が果たす役割が大きくなりそうですね。今後の活躍に期待しております。



龍華国際特許事務所

東京都新宿区新宿1-24-12 東信ビル4F・5F・6F TEL 03-5366-7377 FAX 03-5366-7288
E-mail : ryuka@ryuka.gr.jp URL : <http://www.ryuka.com>